

NISHINASU CARE NET



50TH ANNIVERSARY BOOK

西那須野地区地域ケア会議

SINCE 2017

Nishinasu
NCN

発刊に寄せて

積み重ねられた50回という歩みの中には、一つひとつの出会いと対話がありました。

にしなすケアネットが始まってから今日まで、私たちは地域の声に耳を傾け、暮らしの中にある小さな課題に丁寧に向き合ってきました。決して派手ではないけれど、確かな意味を持つこの積み重ねが、「地域共生社会」への静かな道しるべとなっているように感じます。

人それぞれが異なる生き方を選びながらも、共通して願うのは、健康に、そして自分らしく暮らし続けられる日々ではないでしょうか。とりわけ、住み慣れた地域で安心して過ごせることは、日常のなかにある大切な希望です。

一方、私たちを取り巻く社会環境は急速に変化しています。医療の進歩が寿命を延ばし、超高齢社会が現実のものとなった現代においては、ただ治療することだけでなく、一人ひとりの生活に寄り添った支援の在り方が求められています。

そのような時代の流れの中で、多職種による連携や、地域全体で支え合う仕組みが注目されています。地域包括ケアの考え方は、「支援する側とされる側」という垣根を超えて、住民一人ひとりが役割を持ち、関係し合う社会のあり方を示しています。人々の暮らしを、自分ごととして考える・・・その積み重ねが、地域の力となっていくのです。

にしなすケアネットは、平成29年に西那須野地区で始まりました。発足当初から、住民が主体となって参加するという姿勢を貫き、多職種が対等な関係で意見を交わすこの場は、常に開かれた空気を保ち続けてきました。議論は、個別の課題にとどまらず、社会の構造や制度にまで目を向ける広がりを見せています。

さらに重要なのは、ここでの議論が実際の地域活動へとつながっているという点です。言葉だけではなく実践に移す力がこの場にはあります。

にしなすケアネットの背景には、西那須野という地域に息づく開拓の精神があります。それは那須疏水の歴史にも見られるように、厳しい環境の中でも手を携え、未来を切り開いてきた土地の記憶に支えられているのだと思います。

50回という節目を迎えるにあたり、あらためて、これまで関わっていただきましたすべての皆さまに深く感謝を申し上げます。

企画・運営に尽力された委員の皆さま、貴重な学びを提供してくださいました専門職の方々、行政の皆さま、そして真摯な姿勢で参加していただいた地域の方々。一人ひとりの想いが、この会を温かく、意味あるものに育ててきました。

これからも、にしなすケアネットが、地域に生きる一人ひとりの「声」と「想い」を受けとめる場であり続けることを願っています。

住民が主体となって地域を見つめ、語り、動かしていく・・・その営みこそが、持続可能なまちづくりの礎になると信じています。

にしなすケアネット 企画運営委員
橋本 秀晴（西三島自治会長）

市長あいさつ

この度、にしなすケアネットが50回目の会議開催を迎えられましたことを心からお喜び申し上げます。

本市では、誰もが安心して幸せに暮らせるまちを目指し、福祉、教育、子育てなど、多岐にわたる施策に取り組んでいます。高齢福祉分野においては、高齢者の自立支援や介護予防、健康増進、生きがいづくりなどを推進するために、様々な施策を展開しているところでございます。

本市の2020年の高齢化率は28.4%と、全国の28.8%とほぼ同水準であり、2040年には市民の約40%が65歳以上になる予測です。今後も高齢化が進むため、医療や介護、福祉など、様々な分野での連携が極めて重要となってまいります。

にしなすケアネットは、地域の暮らしの中にある様々な気づきや問題に対し、西那須野地区にお住まいの皆様と専門職の方々が話し合う、貴重な場となっています。そこで出た地域課題について、地域で解決できることや、市への進言が必要なことを整理することにより、本市の地域包括ケアシステムのさらなる構築へとつながっています。高齢者人口がピークを迎える2040年を見据えて、医療・介護・福祉に加え、地域の皆様も含めた地域共生社会を実現するためには、地域包括ケアシステムの深化・推進が不可欠です。

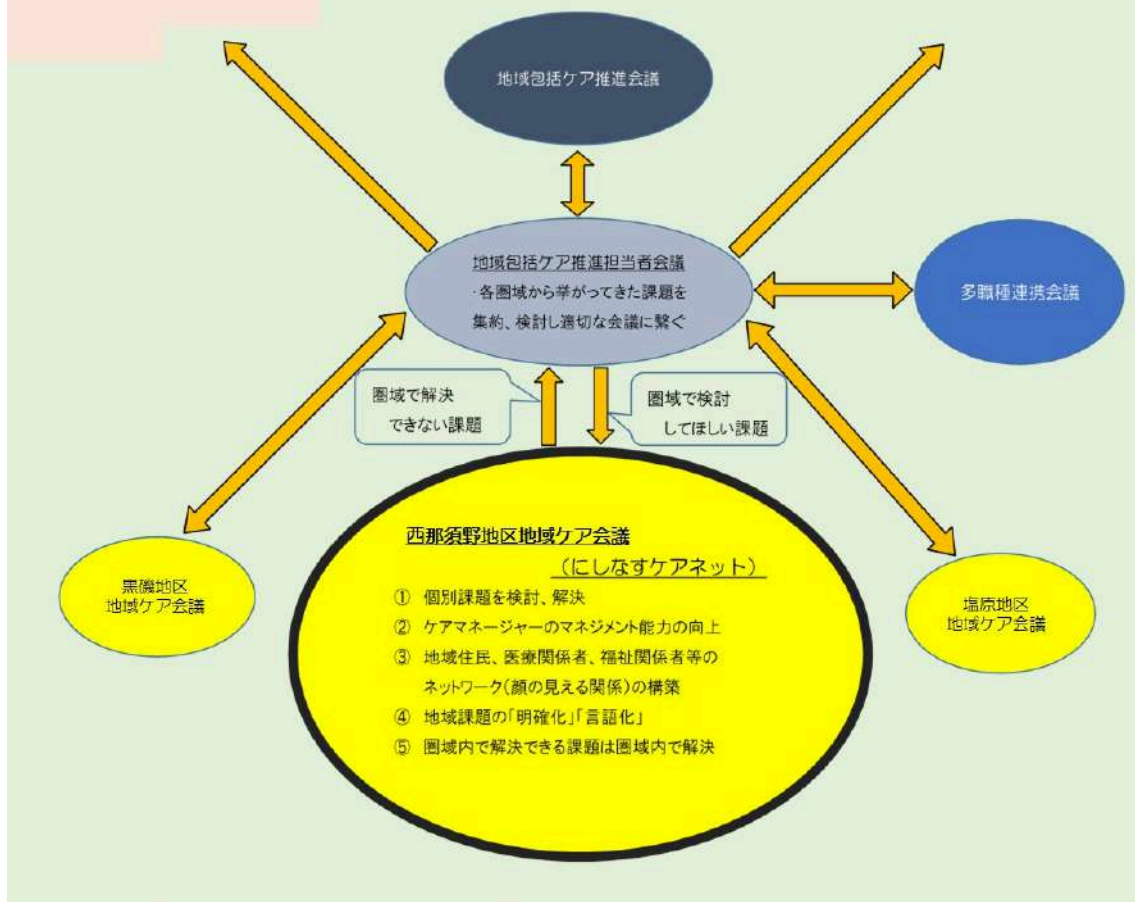
にしなすケアネットが開催50回目を迎えるまでに、会議のテーマは個別事例のみならず、自殺対策や詐欺被害防止など、社会で取りざたされている問題も取り上げ課題解決に取り組んでまいりました。これも、関係機関の皆様の御尽力、そして、にしなすケアネットに御参加いただいた地域の皆様の御理解と御協力のおかげであり、深く感謝申し上げます。今後も地域の現状と課題について、皆様のそれぞれの視点から意見交換や情報共有を行うために、お力添えを賜りますようお願い申し上げます。

結びに、皆様の今後の御活躍と、にしなすケアネットの発展を心より祈念申し上げ、私の挨拶とさせていただきます。

那須塩原市長 渡辺 美知太郎



那須塩原市における地域ケア会議



にしなすの 目指すべき地域像 五つの柱

- ① 「支え合い」 がさかんなまち にしなす
- ② 「役割」 があるまち にしなす
- ③ 「交流」 がさかんなまち にしなす
- ④ 「にぎわい」 があるまち にしなす
- ⑤ 「こども」 が元気なまち にしなす



開催の歩み（目次）

	ページ
第01回 西那須野の歴史、地域特性/自分の組織・自分の地域で何ができるか	6～7
第02回 高齢者と障がい者の二人暮らしの親子が自分らしく生活するためには	8
第03回 高齢者分野制度と障がい者分野制度の勉強会	8
第04回 若年性認知症の方が地域で暮らすために	8
第05回 気付いていますか？子どもの貧困	9
第06回 制度のはざまにいる方の退院支援	9
第07回 認知症で困惑する家族の支援	9
⇒ オレンジドアにしなす・・・・・・27	
第08回 理想の地域社会を目指して	8
第09回 精神に障がいをお持ちの方(ある人)が地域で生活するために	8
第10回 生活困窮者が自立した生活を続けるために	8
⇒ あおぞらのいす・・・・・・28	
第11回 医療的ケアを必要とする子どもが地域で生活するために	9
第12回 高齢者の運転免許返納問題を考える	9
第13回 在宅看取りの現状を考える	9
第14回 空き家問題を考える	8
第15回 認知症で徘徊を繰り返す高齢者	8
第16回 子どもの貧困について	8
⇒ こども“夢”くらぶ・・・・・・29	
第17回 老老介護について	9
第18回 交通問題について	9
第19回 知的障がい・発達障がいについて	9
第20回 新型コロナウイルスから身を守ろう！	10
第21回 これでよかった？withコロナ	10
第22回 コロナ禍における子どもたちの支援	11
第23回 ヤングケアラーって？～きょうだいの視点から～	11
⇒ 那須塩原市ケアラー協議会・・・・・・30	
第24回 参加者の思いから始まった活動報告	12
第25回 ひとりにしないという支援	12
⇒ ゲートキーパー養成講座・・・・・・31	

～五つの柱アイコン～

「支え合い」 がさかなまち にしなす.....	支
「役割」 があるまち にしなす.....	役
「交流」 がさかなまち にしなす.....	交
「にぎわい」 があるまち にしなす.....	に
「こども」 元気なまち にしなす.....	こ

開催の歩み（目次）

	ページ
第26回 お一人様でも大丈夫！？身寄りのない方の支援を考えよう	13
第27回 新型コロナウイルス感染症～最新の動向と今後の対策について～	13
第28回 農×福 連携からみる障がい理解と地域特性	14
第29回 にしなすの未来(ミライ)を考える こどもが元気なまち にしなす	14
第30回 那須塩原市×魅力+移住+新しい力	15
第31回 災害について考える 自分でできることは何か 自助の重要性	15
第32回 身近な人を詐欺から守る 特殊詐欺から高齢者を地域で守ろう	16
第33回 新型コロナウイルス感染症～最新の動向と今後の対策について～第3弾	16
第34回 子どもの将来の自立を地域でサポートしていくために	17
第35回 この話を聞いてほしかった！医療的ケア児とその家族の本音 ⇒ 県北医療的ケアネットワーク・・・32	17
第36回 DV(ドメスティック・バイオレンス)のない社会をめざして	18
第37回 認知症になっても安心して暮らせるまちづくり というけれど…	18
第38回 地域が中心となる 暮らしの足 の創り方と育て方 ⇒ 共創による地域交通を考える会・・・33	19
第39回 映画上映 ふたり あなたという光	20
第40回 母親になって後悔している あなたは自分の人生を生きられていますか	20
第41回 高次脳機能障害について	21
第42回 高齢者とペットについて考える ⇒ 高齢者とペットを支える会・・・34	21
第43回 2025年問題っていうけれど…来年ですね！生活支援体制整備事業を考える	22
第44回 災害レジリエンス 公助の来ない72時間あなたならどうする	22
第45回 ひきこもり状態にある方やその家族の支援について	23
第46回 多様な参加で地域を豊かに	23
第47回 孤独死とかかりつけ医	24
第48回 高齢者の詐欺被害防止及び消費生活に関するトラブル防止について	24
第49回 続・精神に障がいがある人が地域で生活するために～誤解から理解へ～	25
第50回 地元子どもたちや学校に対して地域(私たち)は何ができるか	25

～テーマの分野別色分け～

高	高	高齢者 分野
子	子	子ども 分野
障	障	障がい 分野
医	医	医療 分野(新型コロナウイルス含む)
様々	様々	上記以外のさまざまな分野

にしなすケアネット第1回



～第19回 ダイジェスト

第1回～第19回の記念誌はこちら →



第1回 平成29年8月24日

『西那須野の歴史、地域特性/自分の組織・自分の地域で何ができるか』交 に

様々

支 高 障

第2回

平成29年9月28日

高齢者と障がい者の
二人暮らしの親子が
自分らしく生活するためには



交 高 障

第3回

平成29年10月26日

高齢者分野制度と
障がい者分野制度の
勉強会



支 医

第4回

平成29年11月16日

若年性認知症の方が
地域で暮らすために



交 様々

第8回

平成30年3月22日

理想の地域社会を
目指して



支 障

第9回

平成30年5月31日

精神に障がいを
お持ちの方(ある人)が地域で
生活するために



役 様々

第10回

平成30年7月26日

生活困窮者が自立した
生活を続けるために



に 様々

第14回

平成31年3月28日

空き家問題を考える



支 高

第15回

令和元年5月30日

認知症で徘徊を
繰り返す高齢者



子

第16回

令和元年7月25日

子どもの貧困について



支 子

第5回

平成29年12月21日

気付いていますか？
子どもの貧困



支 医

第6回

平成30年1月25日

制度のはざまにいる方の
退院支援



支 高

第7回

平成30年2月22日

認知症で困惑する
家族の支援



支 子

第11回

平成30年9月27日

医療的ケアを
必要とする子どもが地域で
生活するために



支 高

第12回

平成30年11月22日

高齢者の運転免許返納
問題を考える



役 医

第13回

平成31年1月24日

在宅看取りの
現状を考える



交 高

第17回

令和元年9月26日

老老介護について



支 様々

第18回

令和元年11月28日

交通問題について



支 障

第19回

令和2年1月23日

知的障がい・
発達障がいについて



新型コロナウイルスから 身を守ろう！

交

講師
国際医療福祉大学病院
高橋 和郎 医師

医 参加者80人



～コロナ禍も歩みを止めない！～

西三島自治会長 橋本氏の開会挨拶から始まった今回は1月開催の第19回から、3月・5月・7月と新型コロナウイルス感染症の影響で中止を余儀なくされての久々の開催でした。ただ、以前のような対面での会議は困難でにしなすケアネット初のオンラインでの開催となりました。橋本氏からは「コロナ禍において地域ケア会議を中止する訳にはいかないのではないか、こんな時だからこそICTを活用してwithコロナで新しい在り方を模索していこう」という声上がり、本日オンラインで開催する運びとなりました」という強い意志の言葉がありました。

今回のケアネットは、国際医療福祉大学病院 検査部長・感染室長の高橋和郎先生に新型コロナウイルス感染症について、わかりやすくお話していただきました。



内容

- ・ケアネット活動報告
- ・事業所アンケート報告
- ・講話 「新型コロナウイルスから身を守ろう！」
国際医療福祉大学病院 高橋 和郎 医師
- ・参加者からの質疑

参加者のご意見

- ・テレビの情報が正しいとは限らないということが分かり少し不安が取れました。マスク・手洗いの重要性を学びました。
- ・感染しないように基本を守り日々生活していこうと再確認できました。
- ・高橋先生の話をもとに、職場での対処方法などを再度見直ししながら検討していきたいと思います。

これでよかった？ withコロナ

交

講師
那須塩原市新型コロナ対策室
阿久津 宏介 氏

医 参加者58人



～コロナ前より良いケアを～

介護サービス事業所と障害福祉サービス事業所に参加を集い、事前に行ったコロナ禍での対策や問題のアンケート結果から見えてきたさまざまな課題を情報共有し意見交換する場となりました。

入所施設では家族との面会制限をせざるを得ない状況でオンラインに変更したり、窓越しで行ったりと利用者やご家族の気持ちに寄り添う対応がされていました。

多くの事業所に共通した課題としては、施設内で感染者が出た場合の対応など県内で多発しているクラスターへの心配が多く聞かれました。

内容

- ・「那須塩原市新型コロナ感染症対策の現状について」
那須塩原市新型コロナ対策室 阿久津 宏介 氏
→ホームページ・LINE・Facebook・広報誌・市長の記者会見など様々な方法で市民に正しい知識・情報の周知で対策予防に努めていることを話していただきました。
- ・関係機関の情報共有

参加者のご意見

- ・直接会って意見を交換することができてよかった。
- ・皆が対応に悩まれ、手探り状態で考えていることがあらためて分かった。
- ・他事業所と意見交換・情報共有ができたことがよかった。
- ・スムーズにオンラインで参加することができました。



コロナ禍における 子どもたちの支援

講師

菊地 紀男 氏
直井 茂 氏

予 参加者55人



～コロナ禍で地域にできること～

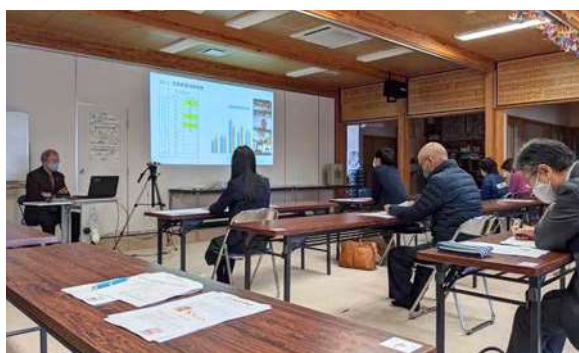
「withコロナの新しいにしないケアネット。コロナにも負けないケアネット。オンラインと会場併用での開催を試みているところです」と、那須塩原市社会福祉協議会の後藤氏からの挨拶で始まった今回は「子どもたちの支援」についてコロナ禍で見えてきた現状と課題を、子ども・子育て総合センター所長の菊地氏、元栃木県北児童相談所所長の直井氏にお話をいただきました。

内容

↑ 大山公民館

- 菊地 紀男 氏 ・ 那須塩原市の現状
・ 新型コロナウイルス感染症感染防止に係る那須塩原市の現状
・ 地域と連携したケース
- 直井 茂 氏 ・ 子どもや保護者を取り巻く環境
・ 子どもの貧困、児童虐待について、現状
・ 必要な支援の体制、支援内容

↓ 西三島公民館



参加者のご意見

- 知らないことがたくさんあって、地域が抱えている現状を知ることが出来て有意義でした。
- 子どもの貧困・虐待等よく知ることができた。さらに関心を持つべきだと感じた。
- 各市町の取り組み状況の説明もあり大変良かった。
- コロナ禍における子どもたちの支援は地域での支援を中心にするのが大切だと、よくわかりました。

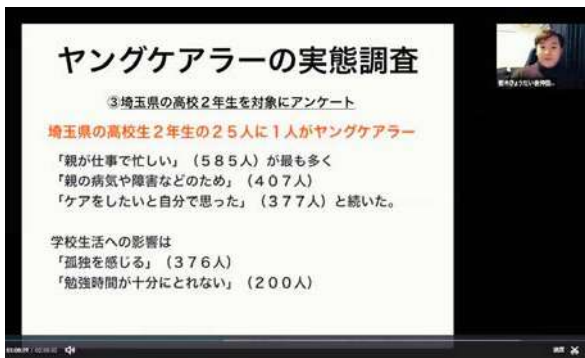
ヤングケアラーって？

～きょうだいの視点から～

講師

栃木きょうだい会
仲田 海人 氏

予 参加者60人



～ヤングケアラーとは、18歳未満の介護を担う人～

ケアラーとは高齢・障がい・疾病などの理由により援助を必要とする家族や身近な人その他の者に対し、無償で介護・看護・日常生活上の世話その他の援助を提供する人のことです。

そして、ヤングケアラーは18歳未満の人をいいます。ヤングケアラーたちには、子どもが子どもらしくいられる「時間」と「場所」が必要。今回のケアネットは栃木きょうだい会の仲田氏にヤングケアラーについてお話をいただきました。

【何が必要か？】

- ①自分を俯瞰してみる冷静になる時間や機会
- ②インナーチャイルドワーク
- ③普通に縛られない価値観
- ④家族関係の再構築

内容

- ・ 講話「ヤングケアラー」～きょうだいの視点から～
栃木きょうだい会 仲田 海人 氏（作業療法士）
- ・ 質疑応答
- ・ グループワーク
- ・ にしなすケアネット活動報告

参加者のご意見

- ヤングケアラーは報道でも取り上げられ関心がありました。このような講話を通して考えるという意識が支援に繋がると感じます。
- 自分の人生を後回しにしながら生きるとの言葉に胸を痛めました。
- とてもわかりやすく、興味深い内容でした。
- グループワークでは多職種の方々が参加され、それぞれの立場や視点からの話を聞かせていただき知識の幅が広がった。とても勉強になった。



参加者の思いから始まった 活動報告

講師
各活動の代表者

交

様々 参加者40人



～オンラインで活動報告会～

18時30分から20時までオンラインで開催。にしなすケアネットで作成していただいた活動の報告会を行いました。にしなすケアネットは、毎回さまざまなテーマを取り上げています。話し合いの中から地域に「あったらいいな」という話がでた時には、その具現化に向けた検討会や具体的な活動を展開してきました。今回は4つの活動について各団体から発表していただきました。

内容

- ・オレンジドアにしなす 飯島 恵子氏
「認知症になってもダイジだよ～わたしたちのホントの居場所～」
- ・あおぞらのいす(ひきこもり不登校支援の会・相談会) 児玉 幸弘氏
「ひきこもりとか不登校って悪いことなの？」
- ・中央地区こども“夢”くらぶ 鈴木 博氏
「まち中に集い、学び、遊び、食べて、子どもと一緒に育つ場を作りたい」
- ・交通問題を考える会 下山 綱吉氏
「みんなで創る にしなすの地域交通（ミライ）」

参加者のご意見

- ➡それぞれの活動内容を聞いて良かった。➡オンラインでの発言が難しかった。
- ➡子ども・高齢者・地域のことなど多くのテーマを扱っていることを知れた。



「ひとりにしない」 という支援

講師
各団体の代表者

支

様々 参加者76人



～自殺予防対策の現状、

遺族の活動について知る～

平成18年自殺対策基本法施行。「個人的な問題」とされてきた自殺が「社会的な問題」と捉えられるようになりました。平成28年には自殺対策基本法改正により、各市町村にも自殺対策計画の策定が義務付けられています。

今回のケアネットは、那須塩原市の現状と対策の講話と平成29年から自死遺族やその支援者が中心となり活動が始まった「分かち合いの会 in 那須」の方々に活動内容についてお話いただき、参加者でグループワークを行いました。

内容

↑ 大山公民館

- ・那須塩原市の自殺予防対策について
社会福祉課障害福祉係 金子 春美氏
- ・会を立ち上げたきっかけ、自死遺族に寄り添う活動
分かち合いの会 in 那須 世話人代表 黒崎 史果 医師
- ・活動に至った経緯、会の活動、思い
分かち合いの会 in 那須 自死遺族の集い「りんどう」 矢野目 昌子氏

参加者のご意見

- ➡自死。今まで身近な人でなかったのが考えることがなかった。もし、自分に置き換えたときのことを考え、このような考える機会ができとても良かった。
- ➡寄り添って話を傾ける姿勢を常に持つていこうと思いました。
- ➡自死についてのネットワークが地域にあることを知れて良かった。
- ➡重いテーマでしたがお話を伺えて良かった。みなさんの思いが伝わりました。



第26回

令和3年7月29日

お一人様でも大丈夫！？

～身寄りのない方の支援を考えよう～

講師

岸友和氏
松本裕行氏

役

高

参加者84人



内容

- ・講話 身寄りのない方について
わんだふるライフ 岸友和氏
- ・事例発表 西那須野西部地域包括支援センター 菊池由紀氏
- ・グループワーク
- ・講和 権利擁護について
栃木社会福祉士会副会長・OWL Tochigi LLC 松本裕行氏

参加者のご意見

- 成年後見制度と事務委任契約についてよく理解できた。
- 身寄りのない方への対応、権利擁護についての仕組みや費用などについて学ぶことができて良かった。
- 実際の事例でわかりやすかった。多職種の方の意見が聞けてよかった。
- 相談があった際は、今日学んだ内容を参考に回答の選択肢の1つにしたい。



～事例を通して考える～

身寄りがなく地域との関りのないケースの相談が増え地域包括支援センターでも対応に困る場合が多くなっています。

事例は「Aさんは県外に甥と姪がいるが連絡をとっていない。また他に頼れる人もいない。がんと診断されたAさんは、これからの生活に不安を抱えている」という内容です。

今回、わんだふるライフの岸氏に「身寄りのない方について」、OWL Tochigi LLCの松本氏に「成年後見制度・事務委任契約」について詳しくお話いただきました。

第27回

令和3年9月30日

「新型コロナウイルス感染症」

～最新の動向と今後の対策について～

講師

国際医療福祉大学病院
高橋和郎 医師

役

医

参加者93人



内容

- ・講話「新型コロナウイルス感染症の最近の知見と感染症対策」
国際医療福祉大学病院 高橋和郎 医師
- ・参加者からの質疑

参加者のご意見

- メディアでも知れない情報も得られて有意義な時間でした。
- エアロゾル、飛沫感染の使い分け等、具体的に理解できました。
- 最新の情報を知ることができました。マスクの種類とその効果がわかり、今後は状況に応じて使い分けたいと思います。
- 日常の感染防止等についてこれまでやっていて必要なことと、神経質にならなくてもよいことの整理ができました。

～昨年8月に続き2回目のテーマ～

第20回のケアネットでは初めて新型コロナウイルス感染症について高橋先生にお話しいただきました。今回のケアネットも高橋先生に再度ご登場いただき、医学的見地から新型コロナウイルス感染症に関する最新の情報や感染症対策をご講話いただきました。



『農×福』連携からみる障がい理解と地域活性

交

障

参加者70人

講師

大高 久尚 氏
芝本 沙南 氏
広瀬 美香子 氏



内容

- ・講話 「本市における農業従事人口の推移や農業と福祉の取り巻く課題」について
那須塩原市農務畜産課担い手支援係 広瀬 美香子 氏
「農業と福祉の連携について 取り組み(実践)を通して」
株式会社テトテ 大高 久尚 氏・寺澤 礼子 氏・坂主 昭二 氏
「のうふく」わたしたちのかたち
NPO法人ワーカーズコープのはら園 芝本 沙南 氏
- ・グループワーク

参加者のご意見

- ・農業を障がい者の就労の選択肢として選べるのが新鮮だった。
- ・農福利用者の声を直に聞くことができ、もっと障がい者の方への理解を増やせればと思いました。
- ・A型事業所の取り組みなど、農福連携についての実際の話が聞けて良かった。
- ・農×福から那須塩原市の魅力を発信して、農業の付加価値を伝えられたら良いと思った。

～農福連携とは～

農福連携とは障がい者等が農業に携わることを通じて、農業経営の発展と障がい者の社会参画を促す取り組みです。障がい者が農作業に従事することにより、農業者にとっては労働力の確保、障がい者にとっては収入の増加などといったメリットもあり、今後、農福連携の拡大が期待されています。

今回のケアネットは講師に株式会社テトテの大高氏・寺澤氏・坂主氏、NPO法人ワーカーズコープのはら園の芝本氏、那須塩原市の取り組み・課題について農務畜産課担い手支援係の広瀬氏にお話をいただきました。



「にしなすの未来(ミライ)を考える」

にこ

子

参加者71人

講師

高松 真理 氏
福田 健心 氏



内容

- ・講話
- ①「現代の子育て環境」現状やあったらいいな
子育て応援issho代表・家庭教育オピニオンリーダーたんぼぼの会代表 高松 真理 氏
- ②「学生と勉強場所」東海大学3年 福田 健心 氏
- ・グループワーク

参加者のご意見

- ・自分の居心地の良い場所などについて考えることもなかったので、考えるきっかけになりました。
- ・わかりやすいテーマで良く理解できました。
- ・普段聞くことのできない学生さんの率直な意見を伺うことができ興味深かったです。グループワークをしてみても既存の施設を活用する余地がまだまだあると感じました。

～『こども』が元気なまちにしなす～

にしなすケアネットが掲げる“目指すべき地域像五つの柱”に、『こども』が元気なまちにしなすがあります。今回のケアネットは、子育てにやさしいまちを目指して、子どもの居場所や環境についての現状を知り「あったらいいな」を考えました。

子育て応援issho代表・家庭教育オピニオンリーダーたんぼぼの会代表の高松氏に、現代の子育ての現状・心地の良い第3の居場所「サード・プレス」についてと地域の課題は地域で解決(地域にある資源を探す)等のお話をいただいた。また、学生の立場から大学生の福田氏より実際の学生・こどもの声としてご意見をいただきました。



「那須塩原市× 魅力＋移住＋新しい力」

に交

講師
各団体の代表者

様々 参加者76人



内容

- ・市長のビデオメッセージ
- ・「那須塩原市の移住の状況」那須塩原市移住促進センター長 和久 強 氏
- ・パネルディスカッション
コーディネーター 室越 礼一 氏 「なすしおばらプロジェクト」を発足
「恋するなすしおばらマルシェ」を開催
- パネリスト 安住 ますみ 氏 地元に根差したグリーンツアーや体験活動を主催
- 豊田 彩乃 氏 ゲストハウス「街音 matinee(マチネ)」を運営
- 君島 真実 氏 高林寺副住職 お寺の夏祭り・駄菓子屋河内屋を手掛ける

・質疑応答

参加者のご意見

- ・気付かなかったことを移住者の方に教えていただき、那須塩原市の良さに気付きました。
- ・チャレンジしたい方の参考になったかと思います。
- ・移住したい方、Uターンしたい方などのそれぞれの考えを聞けてとても良かったです。
- ・市内で活動されている方の話を直接聞けて良かったです。移住されてきた方の話は目からうろこでした。

第30回特別企画

～チャレンジする人を応援するまち

チャレンジできるまち～

第30回を迎えた今回のケアネットは、地域で活躍する新しい力＝移住者から見た那須塩原市の魅力、地域おこしへの取り組みを通して、那須塩原市の魅力を再発見し「交流」「にぎわい」のある地域づくりについて共に考える回になりました。

初めに、渡辺 美知太郎市長からの力強いビデオメッセージをスクリーンに上映。その後、那須塩原市の移住の状況を移住促進センター長の和久氏にお話いただき、室越氏のコーディネートで3名のパネリスト(安住ますみ氏・豊田彩乃氏・君島真実氏)に登壇いただきパネルディスカッションを行いました。



「災害について考える」 ～自分でできることは何か～

役 支

講師
栃木県防災士会
福田 一郎 氏

様々 参加者80人



内容

- ・講話「那須塩原市の防災について」
那須塩原市危機管理室 関谷 和俊 氏
- 「避難行動要支援者について」
那須塩原市社会福祉課 岩瀬 真悠 氏
- 「災害について考える」～自分でできることは何か～
栃木県防災士会 監事 福田 一郎 氏
- ・グループワーク(クロスロードゲーム)

参加者のご意見

- ・改めて災害について意識し何が大切なのかを考える良い機会になりました。
- ・とても楽しく学ぶことができました。自助の大切さがわかりました。
- ・クロスロードゲームで我が事に受け止めることができた。
- ・もう少し時間にゆとりがあるとよかった。内容はおもしろかったです。

～自助の重要性～

自助とは自分自身や家族の命と財産を守るために日頃から災害に備え、災害時には自分で行動することを指します。これは災害対策の基本であり、自分を守ることで周囲の人々を助けることができます。

今回ケアネットは、那須塩原市の防災について関谷氏・避難行動要支援者について岩瀬氏からお話いただき、栃木県防災士会の福田氏より災害についてのお話と、グループ内でクロスロードゲームを行い災害をイメージし防災につながる行動ができるようにレクチャーしていただきました。



「身近な人を詐欺から守る」 ～特殊詐欺から高齢者を地域で守ろう～

講師

伊東 賢太郎 氏
朝比奈 美恵子 氏

高 参加者69人



内容

- ・ 講話
「特殊詐欺被害の状況について」
那須塩原警察署生活安全課 伊東 賢太郎 氏
「詐欺被害・悪質商法について」
那須塩原市消費生活センター 朝比奈 美恵子 氏
- ・ 事例提供 寸劇動画「特殊詐欺から高齢者を地域で守ろう」
- ・ グループワーク

参加者のご意見

- いろいろな事例を聞きました。ありがとうございました。
- 改めて考える機会になった。相談できる人・場所が大切だと思います。
- 日頃からよく耳にすることで身近な問題であり、非常にわかりやすく理解しやすかったです。私自身、高齢の両親が離れて暮らしているのもっと連絡を取らなくてはと思われました。
- 寸劇がとてもわかりやすく参考になった。団員さんお疲れさまでした。

～寸劇動画を作成。詐欺事例から考える～

那須塩原市でも特殊詐欺による高齢者の被害が増えています。

今回のケアネットは被害の実態を知り、身近な人・地域の方を詐欺から守るために何かできるかを考えました。那須塩原警察署の伊東氏、那須塩原市消費生活センターの朝比奈氏に市内の被害状況や対策をお話いただき、寸劇動画での事例を上映しグループワークを行いました。



～動画のオープニング

動画是那須塩原市ホームページ又は左下のQRコードで視聴可能



新型コロナウイルス感染症 ～最新の動向と今後の対策について～ 第3弾

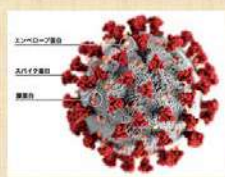
講師

国際医療福祉大学病院
高橋 和郎 医師

役

医 参加者60人

新型コロナウイルス感染症の 最近の知見と感染症対策



国際医療福祉大学病院
ICT 検査部
高橋和郎
takahashikz@iuhw.ac.jp

～オンラインのみで実施～

新型コロナウイルス感染症の第7波による影響で今回のケアネットはオンラインでの開催。国際医療福祉大学病院の発熱外来は過去最大の100人を超える受診者がおり、現場は日々対応に追われている状況です。高齢者施設でも陽性者の対応やクラスター発生時の対応などに試行錯誤している状況にあります。

第3弾になる新型コロナウイルス感染症について、今回も高橋先生にお話いただき、フェーズが変わった感染症の最新の動向と対策について学びました。

内容

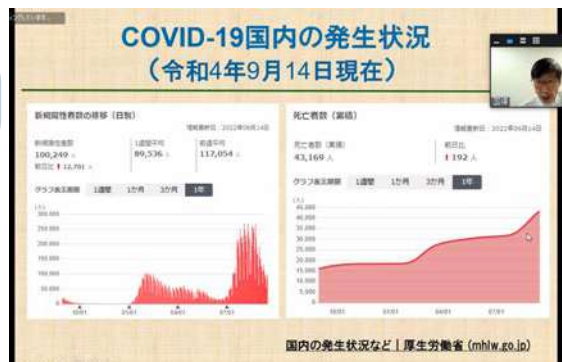
- 「新型コロナウイルス感染症の最近の見地と感染症対策
国際医療福祉大学病院 高橋 和郎 医師

令和4年9月14日現在の発生状況・伝播様式の新しい知見・
クラスター発生事例の解析・ワクチン接種の考え方・
後遺症について・今後の動向



参加者からのご質疑(→高橋先生からの回答)

- 接触感染はあまり気にしなくても良いのか?→注意しなくてはいけないのは唾液であり飛沫感染である。
- 後遺症の原因について→まだ解明されていないので新型コロナの後遺症とは言えない。
- 海外ではある一定の割合で感染者が増えればそれ以上は増えないのは事実か?
→集団免疫のことで、国・集団の9割以上が感染すれば抑えられる。これはワクチン接種が90%～95%達成されると、その国・集団は抑えられるとも言われている。



「子どもの将来の自立を地域でサポートしていくために」

役 二

講師

県北シニアの会代表
鈴木 博 氏

子 参加者55人



内容

- ・講話 「市内の学習支援や生活支援の状況について」
那須塩原市社会福祉協議会 柴田 直也 氏
「活動の中で見えている現状や課題について」
県北シニアの会 代表 鈴木 博 氏
- ・質疑応答
- ・グループワーク

参加者のご意見

- 学習支援・生活支援の現状を知ることができました。福祉と教育の連携が図れるとよいと思いました。
- 子どもや若者が「学習」する本質的なものを考えさせられました。
- 学習支援における課題を理解することができ、大変勉強になりました。
- 教育実習生の教育カリキュラムに組み込む。継続的な活動をするにしても行政がビジョンをはっきりさせ組織化する必要があるのではないか。

～学習支援の持つ意味～

現在の日本では、深刻な少子高齢化・コロナ禍・物価高騰による経済格差・閉じこもり・ひきこもり・ヤングケアラーなど、子どもや家庭をめぐる問題は複雑化・多様化しています。その中で、学習支援の持つ意味は私的・個人的な意味から社会的な意味を持つものへと広がっています。

今回のケアネットは「市内の学習支援や生活支援の状況について」那須塩原市社会福祉協議会の柴田氏、「活動の中で見えている現状や課題について」県北シニアの会の鈴木氏にお話をいただきました。



「この話を聞いてほしかった！」 医療的ケア児とその家族の本音

交 二

講師

国際医療福祉大学病院
鈴木 由芽 医師

子 参加者67人



内容

- ・講話 「医療的ケア児の現状について」
国際医療福祉大学病院 小児科副部長・NICU医長
鈴木 由芽 医師
「在宅生活の実際と思いについて」
鈴木 医師とご家族のトークセッション
- ・講評 菅間記念病院 黒崎 史果 医師

参加者のご意見

- 医療的ケア児に関してほとんど知りませんでした。理解し、情報の共有をはかりながら、何が出来るかを考えていきたいと思えます。
- ご家族のお話を聞かせていただき、とても勉強になりました。
- 医療的ケア児・お母さん・ご家族が安心して生活できるサービスやサポートが増えることを願います。●ひとりじゃないと思えました。

～つながることで暗闇だった道が明るくなった～

令和3年9月に医療的ケア児支援法が施行されました。医療的ケア児への理解が進み、地域で生活しやすい環境が整うことを期待されています。

今回のケアネットは平成30年9月以来の2回目となる「医療的ケア児とその家族」がテーマになります。国際医療福祉大学病院の鈴木由芽 先生に「医療的ケア児の現状」についてご講話いただき、その後ご家族を交えてトークセッションを行いました。



「DV(ドメスティック・バイオレンス)のない社会をめざして」

支

講師
とちぎ男女共同参画センター
小俣 宣昭 氏

様々 参加者70人



内容

- ・講話①「DV被害の現状と対応について」
とちぎ男女共同参画センター 小俣 宣昭 氏
- ②「那須塩原の現状と課題」・事例発表
那須塩原市子ども未来部子育て支援課 子ども・子育て総合センター
本間 誠 氏

- ・グループワーク
- ・質疑応答

参加者のご意見

- DV被害・制度や支援について考える機会を持つことができ勉強になりました。
- 現状を知り事例を通して話し合いができて良かった。
- 顔が見えなくても相談可能なSNS・LINE等の活用、関係をつくりやすい居場所を作るなど様々な支援や仕組みは必要だと感じた。
- 相談先をわかりやすくする。DV防止自体の啓発活動が必要だと思いました。

～誰もが自分らしく安心して暮らせる地域へ～

DV(ドメスティックバイオレンス)は、夫婦間や事実婚及び同棲関係にある方の中での暴力を指します。最近では法的な使い方とは別に、共同生活を営まない親密な関係についても用いられることがあります。平成13年にはDV防止法が制定されました。

今回のケアネットは、とちぎ男女共同参画センターの小俣氏に「DV被害の現状と対応について」、那須塩原市子ども・子育て総合センターの本間氏に「那須塩原市の現状と課題」をお話いただきました。



「認知症になっても安心して暮らせるまちづくり」というけれど…

支

講師(案内人)
ゆいの里 飯島 恵子 氏

高 参加者88人



内容

- ・イントロ「認知症に対する偏見や差別について」
ゆいの里 飯島 恵子 氏
- ・事例発表 西那須野西部地域包括支援センター 小山 雄太郎 氏
- ・グループワーク
- ・講話 「わがまち(那須塩原市)の認知症の施策」
那須塩原市高齢福祉課地域支援係 森嶋 昌子 氏
- ・ディスカッション
インタビュアー：ゆいの里 飯島 恵子 氏

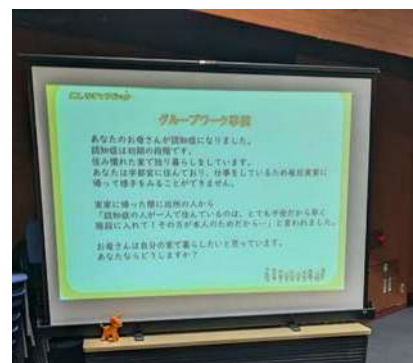
参加者のご意見

- 地域のつながりの大切さを理解することができました。
- 我が事として議論する手段はよいと思いました。
- 自分事として考えていく事が何より大切だと思います。地域作りや地域のコミュニケーション・繋がりがとても重要だと思いました。

～「私はこう思う」という本音で話し合ひましょう～

「認知症に対して参加者一人ひとりがどのように考えているかを引きだし、課題を抽出して共有する。認知症を自分事として参加者に考えてもらいたい。そして、認知症に対する偏見をなくし、本人の意思決定の必要性和権利擁護の意識を高める」を目的として、ゆいの里の飯島氏を案内人に迎えケアネットを行いました。

そして、事例によるグループワーク、高齢福祉課の森嶋氏から那須塩原市の認知症施策の説明、最後に飯島氏が参加者にインタビューして回りディスカッションする流れで実施しました。





共創(キョウソウ)

にしなすケアネットでは、様々な人、異なる団体、多様な組織が協力し合い、【共】に互いの知恵と発想を掛け合わせ、新しい価値観やサービスを【創】り上げながら、地域が抱える様々な課題の解決やイノベーションの促進に取り組んでいます。

プロフィール



福島大学 経済経営学類

准教授 吉田 樹 氏

専門は地域交通政策。全国各地の公共交通に携わり、現場の実践に基づく理論構築に努められ、交通政策審議会地域公共交通臨時委員、栃木県公共交通会議会長、那須塩原市公共交通アドバイザーとして活躍されています。



パネルディスカッション

- ①地域の交通が抱える課題
- ②解決に向けてどのような手立てがあるか
- この2つのテーマをコーディネーターの吉田氏のもと、地域で活躍されている5名のパネラーとディスカッションが展開されました。
- 大石 剛史 氏
- 村山 茂 氏
- 廣川 泉 氏
- 鈴木 正宏 氏
- 中西 聖 氏

地域交通・共創・シンポジウム

～私たちの挑戦、我が事まるごと地域交通～

我が地域の移動手段を地域の関係者が我が事・自分事として考える機会としたいという目的のもと、今回のケアネットは、福島大学の吉田 樹 氏の基調講演とパネルディスカッションの2部構成でのシンポジウムを実施しました。

開会挨拶では、企画運営委員の柴 信行 氏(国際医療福祉大学病院)より「那須塩原市で生活するとき自家用車がない生活は全く想像もつきません。健康で快適な生活をしていくためにはマイカーは絶対に必要です。しかし、高齢になり運転免許を返納する日はいつかは来るとも思っています。その時に備えて、私たちは何をすればよいのか、人任せではなく自分事としてどんな準備をすればよいのかを、本日のシンポジウムで皆様の参考になればと思っています」との言葉がありました。



パネラー紹介

- 国際医療福祉大学 医療福祉マネジメント学科 准教授
- 栃木県北地区タクシー協議会 会長
- らくらくがター事務所
- 那須塩原市市民生活部 課長
- 足利市社会福祉協議会地域福祉推進担当 係長



参加者のご意見

- 他人事ではなく考えていかなければならない問題なのだと思います。
- とても有意義な講演・パネルディスカッションの機会をありがとうございました。自分でもできることを考えていきたいです。
- 地域課題である移動支援を分野を超えて考えていくことが大切だと思います。豊かな地域社会を実現するには地域交通は重要です。
- ただデマンド交通を行うのではなく背景や影響を考えて行うことが重要だと分かった。車が必要なことが前提で地域が作られているという言葉が講話であり、確かにそうだと共感した。
- 住民主体の丸投げではなく、事業者・行政・社協などを巻き込んで解決策を考えていく方向性が示されてよかったと思う。

内容

日時 令和5年7月26日 (水)

14:00～16:00

場所 GUNEI三島ホール

(那須塩原市東三島6-337)

内容 第1部：基調講演 吉田 樹 氏
地域が中心となる「くらしの足」
の創り方と育て方
第2部：パネルディスカッション

第39回

令和5年9月24日

映画上映 「ふたり～あなたという光～」

こ 支

障 参加者70人

講師

仲田 海人氏
相馬 朋恵氏



内容

・映画上映 「ふたり～あなたという光～」

・トークセッション

登壇者：仲田 海人氏 とちぎきょうだい会

登壇者：相馬 朋恵氏 Not alone～ひとりじゃない～

コーディネーター：柴田 直也氏 那須塩原市社会福祉協議会

・質疑応答

参加者のご意見

- 映画を観て今まで考えてこなかった視点を抱きました。対談もとても良かったです。
- ゆっくりお話しが聞けてよかったです。● 親の立場で映画を観ていたので胸が痛かったです。トークセッションも素晴らしかったです。
- きょうだいも親の愛情を受けたいという思いと障害があるきょうだいへの思いなど、一言では言えないたくさんの思いがあると知りました。勉強になりました。
- きょうだいをもっと自由になれるような地域になるように考えていきたいと思いました。

～上映会 & トークセッション～

ケアネットからできたケアラー協議会・医療的ケアネットワークを開催していくなかで、その家族の中のきょうだいについて取り上げることは殆どなく、制度面での支援や社会的認知度が依然として低い現状があります。しかし、気付いていないだけできょうだいは身近に存在しています。

今回のケアネットは「とちぎきょうだい会」「Not alone～ひとりじゃない～」との共催で映画上映とトークセッションを行い、きょうだいへの理解が深まるよう実施されました。



第40回

令和5年11月16日

「母親になって後悔している」 ～あなたは自分の人生を生きられていますか～

支

様々 参加者59人

講師

NPO法人子育てほっとねっと
西田 由記子氏



～3つのバランスをどのよいにとっていくのか～

「母親としての自分・私としての自分・社会人としての自分、その人その人のちょうどいいバランスを探し見つけ出すことが大切。でもそれって思っているよりもずっと難しい…」これは西田氏のスライドの一文です。NHKのアンケートで18歳から79歳までの女性(母親)6528人のうち、1149人が「母親にならなければよかった」と思ったことがあると回答しています。

今回のケアネットは「NPO法人子育てほっとねっと」の西田氏にお話しいただき、コーディネーターの大石先生(国際医療福祉大学)のもと、男女混合グループ→男女別グループの2段階でグループワークを行いました。

内容

・講話 「自分の人生を生きられていますか」

NPO法人子育てほっとねっと 西田 由記子氏

・グループワーク (2段階で実施)

コーディネーター：国際医療福祉大学マネジメント学科
准教授 大石 剛史氏

参加者のご意見

- 考えたこともなかったテーマでしたが皆さんの心の声を直接伺うことができてとても心に響きました。西田さんの話もとても勉強になりました。
- さまざまな年代の方の話を聞くことができて良かったです。
- 講話はもちろん、グループワークも楽しく行い学ぶことができました。
- 2回に分けてのグループワークを行ったのがよかったと思います。
- 自分を活かすことから地域づくりがはじまると改めて思いました。



高次脳機能障害について

講師

国際医療福祉大学病院
前田 眞治 医師

役

障

参加者52人

～目に見えない障害～

事故や病気によって脳が障害を受け、損傷した脳の場所によってさまざまな症状が生じます。脳が損傷を受けると手足の運動麻痺や感覚障害なども生じるが、その中で記憶・行為・注意・社会的行為・言語などの脳の機能に障害のある症状を高次脳機能障害といいます。

今回のケアネットは国際医療福祉大学病院の前田先生に高次脳機能障害についてご講話いただき、事例によるグループワーク、栃木県の取り組みについては矢口氏にお話しいただきました。



内容

- ・講話 「高次脳機能障害について」
国際医療福祉大学病院リハビリテーション科・国際医療福祉大学クリニック院長 前田 眞治 氏
- ・グループワーク
事例提供 那須塩原市社会福祉協議会 柴田直也 氏
コーディネーター：栃木県障害者総合相談所
発達・高次脳機能障害支援課 矢口 君江 氏
「高次脳機能障害支援の理解と栃木県の取り組みについて」

参加者のご意見

- 専門的なお話が聞けて理解が深まりました。
- 皆さんの意見が聞けてよかったです
- 高次脳機能障害という言葉やそれに関して知ることができました。少しでもサポートできたらと思います。
- 業務に大変役立ちます。学んだことを支援につなげていきたい。
- 高次脳機能障害のいろいろな角度からの見え方を知ることができました。



高齢者とペットについて考える

講師

栃木県動物愛護指導センター
片岡 俊輔 氏

役 支

高

参加者60人

～ペットを悲しませないために～

ペットを飼うということは、その一生について責任を持つということ。命あるペットを飼い始める前には、家族で話し合い、将来のことも踏まえて深く考えなければなりません。

今回のケアネットは「高齢者とペット」についてのテーマで行いました。ペットをすでに飼っている方、これから迎え入れたい方に、ペットの適正使用(動物の健康と安全を守り、人に危害を加えたり迷惑を掛けずに飼うこと)について考えるきっかけになることが目的です。

講師として栃木県動物愛護指導センターの片岡氏にお話しいただき、グループワークの事例は那須塩原市高齢福祉課の森嶋氏に提供していただきました。



内容

- ・講話 「高齢者とペットについて考える」
栃木県動物愛護指導センター 片岡 俊輔 氏
- ・グループワーク
～事例～ 事例提供：那須塩原市高齢福祉課 森嶋 昌子 氏
「ペットと暮らしている独居高齢者が倒れ、ペットが家に取り残されてしまいました。あなたならどのような関わりができるでしょうか？」

参加者のご意見

- 今までに無かったテーマで、身近な問題なのでとても参考になりました。
- とても興味深い内容で、講話も話し合いも勉強になりました。今後、ペットを飼うときには参考にしたい。
- 地域のネットワークが必要だと思いました。
- 高齢者が淋しいからペットを飼うということを聞きます。その淋しさは地域のつながりでケアできればと思いました。
- またシリーズ化してやって欲しい。
- ペットという言葉が軽すぎる。命の重さを考えさせられました。



2025年問題っていうけれど… 来年ですわ！

～生活支援体制整備事業を考える～

講師

栃木県生活支援体制整備事業
アドバイザー
飯島 恵子 氏

高 参加者121人



内容

- ・講話 「生活支援体制整備事業ってなんだべ」
栃木県生活支援体制整備事業アドバイザー 飯島 恵子 氏

「生活支援サービス事業・助っ人からすの実践について」
那須烏山市社会福祉協議会 石井 泰之 氏

- ・那須塩原市の地域支え合い推進員(SC)紹介
- ・グループワーク「あなたのあったらいいな、やってみたいのを教えてください」

参加者のご意見

- 知らないことを知ることができました。ありがとうございました。
- SCさんを知ることができて良かったです。●参加者の多さに驚きました。
- 他機関や関係者の方と交流・意見交換ができて良かったです。このような話し合いをすることが重要だと感じました。●グループワークで「地域に愛がないと続かない」との発言があり、ここにいる参加者は地域を何とかしたいという思いがあるのだと感じました。

～生活支援体制整備事業ってなんだべ～

2025年問題とは、団塊の世代が75歳以上の後期高齢者となり医療・介護の需要が急増すると同時に、労働人口が減少するなかで、介護人材不足が深刻化することが懸念される社会問題である。そして、生活支援体制整備事業は高齢者が地域のなかで生き生きとした生活ができるように体制づくり・地域づくりを行う事業になります。

今回のケアネットは、栃木県生活支援体制整備事業アドバイザーの飯島氏を案内人として生活支援体制整備事業を一から学んでいきました。また、市内で活躍している地域支え合い推進員(生活支援コーディネーター・SC)の紹介も行いました。



「災害レジリエンス」 ～公助の来ない72時間 あなたなら どうする (能登半島地震に学ぶ)～

講師

黒磯七区自主防災会
小泉 信三 氏

役 支

様々 参加者100人



内容

- ・講話 「那須塩原市の防災や災害時の対応について」
那須塩原市危機管理課 室井 良文 氏
「避難行動要支援者について」
那須塩原市社会福祉課 田畑 政昭 氏
「災害時の共助・自助について」
黒磯七区自主防災会会長 防災士 小泉 信三 氏
- ・グループワーク

参加者のご意見

- 災害が少ない地域なのであまり考えなかったが、最近は何かが起こるかわからないので学べてよかった。●我が事として考える必要があると思いました。
- 改めて自治会やコミュニティの大切さを知りました。●普段から関係作りが大切だと実感しました。●災害時の対応について学べて良かったです。
- 日頃から周辺住民の方とコミュニケーションをとり助け合える関係を作っていきたい。

～災害の基本は自助～

令和6年1月1日、石川県能登地方で大規模な地震が発生し甚大な被害をもたらしました。災害の規模が大きくなればなるほど道路や交通状況にも被害が及び、救助の人員や支援物資がしばらくの間は届かないこともあります。また、限られた人員・物資のなかで公助を行わなければならない、十分な救助や医療処置も困難になります。つまり、災害時は国や行政などによる公助に限界があると言えます。

今回のケアネットは、災害の基本である「自助・共助」の取り組みについて防災士の小泉氏にお話しいただき、那須塩原市の防災・災害時の対応・避難行動要支援者についても学びました。



第45回

令和6年9月26日

「ひきこもりの状態にある方や そのご家族の支援について」

支

講師
栃木県若年者支援機構
中野 謙作 氏

子 参加者69人



～全国で約146万人～

ひきこもりとは、原則的には6ヶ月以上にわたって概ね家庭に留まり続けている状態をいいます。国の推計値から計算する市内に約2000人いると推計されます。実は、私たちの意外と近くにいる存在かもしれません。一言でひきこもりと言っても、いろいろなケースがあり、解決する方法・目指すゴールは一人ひとり違うものです。

今回のケアネットは、栃木県若年者支援機構の中野氏にひきこもりの現状と支援についてお話いただきました。

内容

- ・講話 「ひきこもり支援の現状と支援について」
栃木県若年者支援機構代表理事
栃木県子ども若者ひきこもり総合相談センター ポラリスとちぎ 中野 謙作 氏
- ・グループワーク
事例発表 那須塩原市社会福祉協議会 柴田 直也 氏
※個人では難しくても①地域の関係機関・企業と連携できること
②あったらよい活動や施策があれば共有する



参加者のご意見

- 相談機関を知ることができてとても参考になりました。事例を通して、ひきこもりの方の支援の取り組みのイメージができました。
- 他の職種の方の話が聞けたり、社会資源を知ることができてよかったです。
- ひきこもりを悪いとしない優しい社会でありたいと思いました。
- 参加者のみなさんの積極性や熱意をととても感じました。

第46回

令和6年11月28日

多様な参加で地域を豊かに

役 に

講師
青空プロジェクトTHE DAY
土崎 雄祐 氏

様々 参加者66人



～地域の相利を考えよう～

地域生活の課題やコミュニティに対する意識やあり方が大きく変化していく現代。そして、価値観やライフスタイルの変化のなかで個人主義が広まり地域とのつながりを求めない人も増えています。一方で、興味や関心を共有するつながり・当事者同士の結び付きに基づく活動も広がり、まちづくりや社会課題の解決に関心も持つ若い世代も増えています。

今回のケアネットは、多様な方が関わりながら豊かに地域を作っていくにはどうすればよいかというテーマを、県内で活躍されている土崎雄祐氏にお話しいただきました。

相利＝ それぞれの目的が違うという前提のもと、共有の目標を作り達成することでお互いのそれぞれ異なる自分のしたいことを追求すること。

内容

- ・講話 「多様な参加で地域を豊かに」
一般社団法人青空プロジェクト THE DAY
宇都宮大学地域デザイン科学部付属地域デザインセンターコーディネーター
土崎 雄祐 氏
- ・グループワーク
・市民活動センターうえるるの紹介 石川 みち子 氏
・ボランティアセンターの紹介 那須塩原市社会福祉協議会 室井 修 氏

参加者のご意見

- 土崎先生のお話とても参考になりました。相利について理解できました。
- 有償ボランティアの考え方を聞いて参考になりました。
- 地域の協力等が重要だと改めて思いました。今後活かしていきたい。



孤独死と“かかりつけ医”

講師

株式会社エツリン
江連 秀夫 氏

支

医

参加者63人



内容

- ・講話 「孤独死のリアル～より良い最期を迎えるための準備～」
株式会社エツリン 江連 秀夫 氏

「かかりつけ医など社会とのつながりについて」
特定医療費について 国際医療福祉大学病院 吉成 和子 氏
健康診断について 那須塩原市健康増進課 大島 圭子 氏
その他の社会資源 地域包括支援センターとちのみ 遠藤 晃子 氏

- ・グループワーク

参加者のご意見

- 江連さんの講話を聴いてとても勉強になりました。孤独死について深く考えました。
- 孤独死を防ぐ対策・かかわりの難しさを感じた。
- 孤独死をさせてはいけないと思いました。地域のネットワークの大切さを改めて感じました。●人と人との繋がりが大事だと感じました。
- 親に生前整理の話やエツリンさんの動画を見せたいと思いました。

～人は、誰も独りで黄泉に赴く、

その前にやっておくこと～

英語で孤独死とは「Unattended death」。日本語で直訳すると「伴われない死」です。誰かが一緒にいない死となり、これを孤独死と言います。そして、死の前に誰かに伴われるか伴われないかが問題になります。伴われない死は何が悲惨なのか？何がいけないのか？伴われるために私たちはどうすればよいのか。

今回のケアネットは、株式会社エツリンの江連氏に「孤独死のリアル」についてお話しいただき、「かかりつけ医など社会とのつながり」についての情報提供も行いました。



「高齢者の詐欺被害防止及び消費生活に関するトラブル防止について」

講師

伊東 賢太郎 氏
佐藤 友子 氏

支

高

参加者67人



～ストップ詐欺被害 最近の手口を知る～

詐欺被害は高齢者に多いと思われがちですが、最近はSNSの普及により若い世代の被害も増えています。まずは、自分が被害に遭わないために、そして増加する高齢者の被害を防ぐために、地域で何ができるか解決策やきっかけを学ぶ必要があります。

今回のケアネットは、那須塩原警察署の伊東氏、那須塩原市消費生活センターの佐藤氏にお話しいただきました。

内容

- ・講話 ①「特殊詐欺の実態と対策について」
那須塩原警察署生活安全課 伊東 賢太郎 氏
- ②「那須塩原市の相談状況など」
那須塩原市消費生活センター 佐藤 友子 氏
- ・事例紹介
- ・グループワーク

参加者のご意見

- とても有意義な時間でした。地域の方に今回の学びを伝えたいと思います。
- 詐欺への対策を知ることができた。
- 自治会の生きがいサロンで高齢者の方にも話し合う機会があってもよいと思いました。●自治会を巻き込んで今回のような話をして欲しい。
- 自治会長も参加して聴いて欲しいと思いました。



続・精神に障がいがある人が 地域で生活するために

支

講師
地域生活支援センターゆずり葉
八木澤 龍之介 氏

障 参加者91人



内容

・講話 「続・精神に障がいがある人が地域で生活するために」
地域生活支援センターゆずり葉 八木澤 龍之介 氏

「精神障害にも対応した地域包括ケアシステムとは」
栃木県県北健康福祉センター健康支援課 阿久津 緑 氏
那須塩原市健康増進課 大島 圭子 氏

・グループワーク

参加者のご意見

- 専門的な内容でしたが知ることができて勉強になりました。八木澤さんの講話がわかりやすかったです。
- 統合失調症・気分障害などの現状や病態についてよくわかりました。
- 障がい者への理解や何かあった際にどこに相談すればよいかなど学べました。学んだことを周りにも周知していければと思います。
- 多職種とのグループワークがとても中身が濃かったです。
- 障害に関する基本的な知識がわかりやすく説明いただけたので大変面白かったです。



～誤解から理解へ～

前回の精神障がいテーマの時には「障がいのある人の生活の場を病院から地域へ変えるためにできること」について考えました。そして今回は「地域で生活すること」がテーマで実施。

精神疾患は特別な人になる病気ではなく、誰でもなりえる病気であることを知っていただき、同じ地域に住むひとりとして、もしくは支援者として何ができるかを話し合いました。講師には、地域生活支援センターゆずり葉の八木澤氏、県北健康福祉センターの阿久津氏、那須塩原市健康増進課の大島氏にお話をいただきました。

地元の子どもたちや学校に対して 地域(私たち)は何ができるか

交

講師
槻沢小学校校長 染谷 武彦 氏
三島中学校PTA会長 廻谷 和典 氏

子 参加者80人



内容

・講話 「槻沢小学校PTA組織の移り変わりについて」
那須塩原市槻沢小学校校長 染谷 武彦 氏
「中学校の現場から」
那須塩原市三島中学校PTA会長 廻谷 和典 氏

・質疑応答

・グループワーク

参加者のご意見

- 今まさに小学校のPTA執行部で活動しているのでとても貴重な情報収集ができました。
- 学校側・PTA側・地域側の意見が聞けたので今後の地域づくりのヒントになりました。
- 様々な立場、経験のある方とお話しさせていただくのはとても勉強になります。
- テーマが大きかったですが、身近な話題だったため話し合いやすかったです。
- 地域の協力を得るには、参加する動機付けや参加しやすさなど負担感が小さいことがポイントで好事例の発信や参加協力のアナウンスが効果的だと思います。

～現場の声を聞いて一緒に考える～

昨今の価値観の多様化や生活スタイルの変化により全国的にPTA役員の成り手不足などの問題が出てきており、那須塩原市も例外ではありません。一方、実際の現場では、学校や保護者はより活動しやすいように柔軟に変化している地域もあります。

今回のケアネットは学校や保護者といった現場の声を聞き、講師には那須塩原市槻沢小学校の染谷校長先生、那須塩原市三島中学校の廻谷PTA会長にお話をいただきました。そして、地元の子どもたちや学校に対して地域(私たち)が何ができるかを一緒に考えました。



にしなすケアネットの話し合いのなかで

あたら いな

という声からできた活動(協議体)の紹介

認知症当事者の会・認知症カフェ オレンジドアにしなす

第4回 『若年性認知症の方が地域で暮らすために』（平成29年11月16日）

第7回 『認知症で困惑する家族の支援』（平成30年2月22日）

第4・7回のケアネットで当事者が集まれる居場所が必要だとの意見があがりました。これを受けて開催された『認知症当事者の会・立ち上げ検討会』には実際に当事者たちをお呼びしてご意見をいただきました。

三度の検討会を経て立ち上がった『オレンジドアにしなす』は、若年性認知症の当事者である丹野智文さんが代表を務める『おれんじドア仙台』を目標にするべく、のれん分けの形で命名しました。



当事者がつくる「お互いさま」の居場所

オレンジドアはもの忘れなどの不安を抱える方や認知症と診断された本人、その家族が集う場所です。医療・福祉の専門職も毎回参加。同じ悩みを持つ人と繋がって、共に語り、共に学び、相談し合うことができます。その中で参加者一人ひとりがこれからやりたいことを話し合い、どうやったら実現できるのか、意見を交わしています。



丹野さんと語ろう！

令和7年3月、仲間たちの間で『丹野さんに会ってみたい！』という声が多数上がりました。ご本人に持ち掛けたところ、オレンジドアにしなす主催のお話会が実現。仲間たちが会場準備と手作り豚汁を用意して一緒にランチを囲みました。

お話会では丹野さんと参加者が近い距離間で交流し、当事者が不安に感じていることを受け止め、考えを語ってくれました。



RUN伴栃木・チーム那須塩原

認知症にやさしいまちを目指し、病気の有無も、老いも若いも関係なく一緒になって走り、歩き、タスキを繋ぐ全国規模のイベントです。チーム那須塩原は市内の認知症カフェと有志が協力し合って参加しています。

認知症支援のシンボルカラーであるオレンジ色をまとった一団が、一体となってまちに行く姿は圧巻です！



オレンジドアにしなす 開催情報

日時：毎月第1・第3火曜日

10:00～12:00

場所：健康長寿センター内 ボランティアセンター（市内南郷屋5-163）

参加費：200円

駐車場：あり（無料）

お問合せ：那須塩原市社会福祉協議会
地域支援係（TEL：0287-37-5122）

ソーシャルケアワーカー集団 しもつかれいど
事務局ゆいの里 飯島 恵子 氏からのコメント



「オレンジドアにしなす」はコロナ禍も粛々と活動を続けて8年目。安心して認知症になれる社会をめざして、語り合い学び合い支え合う仲間が集い、様々な活動をしています。認知症への誤解を解き、理解を深めるために正しい知識を持つことが大切！と映画『オレンジランプ』上映会や丹野さんを囲んでの話し合いや飲み会も主催しました。

不登校ひきこもり支援の会・相談会 あおぞらのいす



あおぞらのいす
LINE公式アカウント

第10回「生活困窮者が自立した生活をするために」 (平成30年7月26日)

第10回にしなすケアネットの中で「ひきこもり状態になっている人への支援が必要」との意見が多数ありました。まずは現状を知ること・理解することが重要と考え、栃木県子ども若者・ひきこもり総合相談センターの中野氏を講師に「ひきこもり支援勉強会」を実施しました。

その後も不登校親の会や関心がある市民、専門職でどのようなことができるか検討を重ね、令和元年12月から、ひきこもり状態にある人の家族、支援しているが悩みを抱える専門職が集える場所「ひきこもり支援の会・相談会」が開催されました。



「あおぞらのいす」として

名称の公募を行い「あおぞらのいす」に改称しました。不登校もひきこもりと表裏一体である問題と捉え、ソーシャルワーカー集団「しもつかれいど」の主催により、毎月第1月曜日18:30~20:00 栃の実荘交流スペースで話し合いが行われています。

毎月第1水曜日10:00~12:00サンノハチにて“ひきこもり”家族のつどいも開催しています。



あおぞらフェスタ
2024
トークセッション
動画

URL
<https://www.youtube.com/live/fUJ-zjcroZY>

あおぞらフェスタ

「誰もが安心していただけるみんなのための居場所」を目指し「あおぞらフェスタ」を令和3年より毎年開催しています。登校しぶり・不登校のお子さんを持つ保護者同士、関心がある福祉専門職などが学校のこと、家族のことなど相談し合う「大人カイギ」や不登校親の会や学校関係者、福祉専門職などによる「トークセッション」、不登校親の会や福祉事業所による情報展示やワークショップ等のブース出展、えんにちスペースによる交流を行いました。

あおぞらのいす美術展

令和6年8月1日~8月31日セグロラ化粧品ギャラリーをお借りして「あおぞらのいす美術展」を行いました。ひきこもり、不登校の方だけでなく地域の方の絵や折り紙、木工品等の手工芸品や美術作品を展示しました。感想ノートにはたくさんのあたたかいメッセージをいただきました。



栃木県子ども若者・ひきこもり総合相談センター ポラリス☆とちぎ センター長 中野 謙作 氏からのコメント



あおぞらのいすは令和元年の開設当初からポラリスとちぎとして関わらせていただいています。ここには福祉関係者だけでなく、地域の方や議員さん、そして当事者ご家族も参加できる場になっています。あおぞらのいすがきっかけとなり、ポラリスの出張相談も始まりました。不登校やひきこもりの当事者やご家族を孤立させることなく、支えるには地域の方の支えが不可欠です。あおぞらのいすはそれを言葉通りに実現しています。今後、ますますの活躍を期待しております。

家庭と学校以外の第3の居場所 こども“夢”くらぶ

第5回にしなすケアネット「気づいていますか？
子どもの貧困」(平成29年12月21日)

参加者から「子どもの現状を知る機会が必要」「地域全体で子どもを見守る体制が必要」といった意見が多数あがり、地域で具体的に何ができるかを話し合う検討会を開催しました。

その後、東小学校区の有志の方々が活動場所を探したり、協働できる人や団体と協議をしたりと多くの時間をかけ、「みんなで作って、食べて、遊んで、学ぼう」をテーマに「中央地区こども“夢”くらぶ」の活動がスタートしました。



みんなで作って、食べて、遊んで、学ぼう！

子育て世代は共働きや核家族化などの状況から親子で調理をしたりする時間がとれなかったり、宿題をみる時間を確保したりすることなどが難しい状況にあります。子どもたちの居場所を作り、学校の勉強をみたり、同年代の子どもたち同士や大人との交流をしたりする機会を作る等、子どもたちを地域全体で育てたいという思いで活動されています。

他の地域にも広がりました



「南っこ夢くらぶ」

南小学校区の主任児童委員、民生委員、元教員、PTA等の有志の方々が話し合い、南小学校へのアンケートを行うなど、子ども達や学校の声聞きながら活動を立ち上げました。



「おおやまこども“夢”くらぶ」

大山コミュニティ、PTA、児童クラブ、元教員、民生委員等の地域の有志の方々が話し合いを重ね、活動を立ち上げました。

市内には3つの「夢くらぶ」がありますが、西那須野中学校の生徒や高校生のボランティアも活躍しています。

こども“夢”くらぶ 開催情報

「中央地区こども“夢”くらぶ」

月3回 日曜日に実施 10:00～15:00

西那須野公民館か永田公民館

「南っこ夢くらぶ」

月1回 南公民館

「おおやまこども“夢”くらぶ」

第3日曜 10:00～13:00

大山公民館

中央地区こども“夢”くらぶ

代表 寺戸 博道 氏からのコメント



私たちは、小学生を対象に「こどもの居場所づくり」と地域がこどもの成長を手助けすること等を目的に学習支援、工作支援、昼食提供、遊び相手などを行っています。

平成30年に場所探しから始まった活動は、コロナ禍を経て令和2年からは、日曜日(月3回)10:00～15:00ほぼ公民館開催。児童登録数約20名、献身的スタッフ約20名で開催しています。

官民連携ケアラー支援ネットワーク 那須塩原市ケアラー協議会

第23回 ヤングケアラーって？～きょうだいの視点から～（令和3年1月28日）

第23回ケアネットにて”今回だけで終わりにせず、みんなで話し合い考える場を設けたい”という意見が多数上がり、同年3月4日に検討会を開催。核となるメンバーを中心に”考える場＝協議会”を立ち上げる運びとなり、同年3月30日に「那須塩原市ヤングケアラー協議会」として発足しました。

毎月開催する定例会では支援者の資質向上と情報共有、連携強化を図る他、市民への周知・啓発活動として県内各地のヤングケアラーイベントへのブース出展や市内小中学生に向けた講話を催しています。

日時：毎月第3火曜日 18:30～20:00

場所：特別養護老人ホーム栃の実 交流スペース（井口533-20）

参加費：無料

駐車場：あり（無料）

お問合せ：那須塩原市社会福祉協議会 地域支援係（TEL：0287-37-5122）



“ヤング”で終わらない、全世代ケアラー支援へ

令和5年3月18日、シンポジウム「ヤングケアラー再考」を開催しました。ヤングケアラーの事例を基に、作業療法士、介護支援専門員、スクールソーシャルワーカー、きょうだい会代表が登壇しトークセッションや来場者の質問を受けてディスカッションを行いました。

協議会立ち上げから2年。ヤングケアラーがメディアに多数取り上げられ、認知されていく過程で支援の在り方も変化していきました。数多くの事例検討や話し合いを重ねる中で、“ヤング”に留まらないより広い視野でケアラー支援に当たる必要があるという考えに至りました。令和5年4月、『那須塩原市ヤングケアラー協議会』は『那須塩原市ケアラー協議会』へと改称しました。



ヤング&若者ケアラースalon

大切な人をケアする若者たちが家庭的な雰囲気の中で交流できる居場所です。同世代の人たち、似た家庭環境を持つ人たちと語り合い、共感しあうことができます。

日時：第4日曜日 13:00～15:00

場所：西那須野幼稚園 駐車場奥のログハウス

参加費：無料

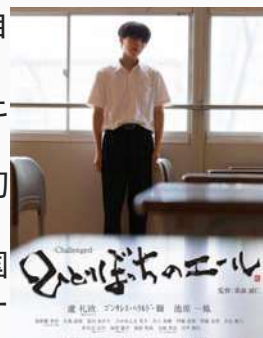
お問合せ：那須塩原市社会福祉協議会

地域支援係（TEL：0287-37-5122）

映画上映会を開催しました

ヤングケアラーをテーマとした自主製作映画の上映会を催しました。主人公の家族に対する葛藤であったり、友人やまちの大人たちといった、そっと見守り支える人々の大切さが描かれた映画でした。

当日はプロデューサーの仲村雅国さんをお招きし、仲田さんとのトークセッションも行われました。



ケアラーLINE相談

医療・福祉の専門職で運営する、全世代のケアラーを対象とした相談窓口です。メッセージは24時間受付。情報発信も行っています。進学のことや家族のことなど、具体的なことは話せない場合でも繋がりを絶やさない支援を心がけています。



<https://line.me/R/ti/p/@880hozee>

一般社団法人Roots4

理事 仲田 海人 氏からのコメント



協議会に毎月集まり話す中で、ヤングケアラーだけでなく親や家族全体を応援する必要性を再認識しました。家族それぞれが自分で決めたケアをしつつも自分らしく生きていける社会を皆さんと一緒に作っていきたいと思っています。

心の危機に向き合う ゲートキーパー養成講座

第25回『「ひとりにしない」という支援
～自殺予防の対策の現状、
遺族の活動について知ましょう～』
(令和3年5月20日)

「亡くなる前のサインに気づけなかった」
「地域全体で考えていく問題」などの意見
があがった。



ゲートキーパー養成講座を受けてみたい
という声も多くあったことから、那須塩原
市と共催で養成講座を開催。
令和3年より毎年開催している。



ゲートキーパーは【命の門番】

ゲートキーパーとは、「自殺の危険を示すサインに気づき、適切な対応を図ることができる人（厚労省）」のことです。日本の自殺率はコロナ禍で上昇していて、若者の死因の原因1位にもなっている状況です。

「あなたが大切だ！」と伝えて

◇「命を大切に」ではなく、「あなたが大切だ」
というメッセージ

◇「見守ってくれる人」「地域・自治体」の存在
こそ生きる力に...ゲートキーパーの存在意義



講師をしていただいているのは、栃木県カウンセリング協会の丸山隆先生です。

ゲートキーパーの役割や、自殺に傾いている方への対応と支援について具体例を交えながらお話をいただいています。

養成講座を受けていただいた方を対象にフォローアップ研修も開催しています。コミュニケーション技法や、具体的な危機対応について演習を通して学ぶことができます。

ゲートキーパー養成講座 開催情報

<ゲートキーパー養成講座>

時期 : 毎年8月

場所 : 国際医療福祉大学病院 5階講堂

<ゲートキーパーフォローアップ研修>

時期 : 毎年10月

場所 : 国際医療福祉大学病院 5階講堂

事務局 : 地域包括支援センターとちのみ

お問合せ : 0287-37-1683

栃木県カウンセリング協会

丸山 隆氏よりコメント



人にはみな個性があり悩みは人それぞれである、という。だからこそしんどい思いを抱える一人ひとりに寄り添い「良かったら聴くよ」「私にできることある？」と声をかけ、手を差し伸べる人々（ゲートキーパー）で溢れている…。「いのち支えあうまち」那須塩原市になるといい！

家族や機関で集う機会をつくろう！ 県北医療的ケアネットワーク

第35回「この話を聞いてほしかった！」

医療的ケア児とその家族の本音

～つながることで暗闇だった道が明るくなった～

(令和5年1月26日)

◇グループワークから出た意見

- ①家族同士が繋がれる場があると良い。家族会がほしい
- ②直接的にお子さんに関わることはできなくても、地域の人に理解を促すことができる
- ③小児の訪問診療や訪問看護などの体制が栃木県北ではまだまだ弱い。多職種で考えていきたい
- ④きょうだい、ケアラーに対しての関わりやケアラーの理解啓発を促す活動はできる

これらの意見から・・・



オンラインの交流、意見交換の場として！

令和5年3月10日に県北医療的ケアネットワークミーティングがスタートしました。現在は3カ月に1回(4月、7月、10月、1月)、第2木曜日の15時30分～17時00分オンラインで開催しています。

家族や本人、医療や福祉の専門職、きょうだい会等地域で活動する方等が情報交換や意見交換等の交流を行っています。

つむぎ会発足！

NICUで家族同士の繋がりが作られてきたが、コロナ禍でなくなってしまった。特に母親同士の繋がりが重要・・・そのような声から

「医療的ケア児者家族のおしゃべり会 つむぎ会」が発足しました。

毎月第4木曜日12:00～13:00

ケアのこと、家族のこと、自分のことなどオンラインでのお話の場になっています。

家族の交流会、関係する多職種の顔が見える関係性構築をしたい！

本人、家族を中心とした交流会、ネットワークづくりとして毎年イベントを開催しています。

「医療的ケアネットワーク交流会」

令和5年10月29日健康長寿センター

「虹色フェス2024」

令和6年9月23日宇都宮共和大学那須キャンパス



医療的ケア児者家族のおしゃべり会つむぎ会
代表 山下のぞみ氏からのコメント



医療的ケアのある4歳男児の母です。同じような境遇の家族の集まりである「つむぎ会」を発足することで孤立しがちな障害のある子どもとの在宅生活に希望が見えました。多職種の方々と関わる事で地域と繋がれる安心感もあります。



URL
<https://mikanmikann.my.canva.site/dagdxvj7iww>

お母さんたちがホームページを作りました！！

私たちの挑戦、我が事まるごと地域交通 共創による地域交通を考える会

第38回「地域が中心となる「くらしの足」 の作り方と育て方」(令和5年7月26日)

シンポジウム動画 URL



① <https://www.youtube.com/watch?v=Iih5gbpuF3A&t=1s>

② <https://www.youtube.com/watch?v=VfCQoD2zGCK&t=1392s>

その後、シンポジウムの振り返りや、黒磯南高の生徒に地域交通に関するアンケート調査、公共交通の必要性や現状把握について、医療・福祉専門職や地域住民、行政、市議会議員などが話し合いを重ね、より具体的な話し合いを行うための協議体として活動する運びとなりました。



協議体としての「共創による地域交通を考える会」

令和6年3月12日三島公民館にて第1回共創による地域交通を考える会が開催されました。情報交換や意見交換を行い、他地区で行われる外出支援事業について、那須塩原市内の地域資源について、介護保険における総合事業など制度面について、公共交通機関を利用し慣れない地域性がある等、今後の方向性につながる話題があがりました。



他地域での取り組みを知る

第3回(令和6年6月13日)では大田原市社会福祉協議会、佐久山地区社会福祉協議会の方をお呼びし、佐久山地区で行われている外出支援事業について、発足の経緯やボランティアの集め方、運営のノウハウ等お話をいただきました。

第8回(令和7年6月12日)では、さくら市職員、さくら市の支え合い地域づくり活動団体「ねこの手」「フィオーレ和会」の方をお呼びし、さくら市でどのように総合事業を立ち上げていったか、団体を集めたか、団体の取り組みの内容などをお話いただきました。



協議体としての活動をすすめていく中で、高齢者の足の問題など、交通について地域では様々なニーズや課題があることがわかりました。また、具体的なニーズ把握のため地域の高齢者の集まる場所で、送迎のニーズ等の聞き取りも行いました。

『公共交通は「幹」。地域住民による移送サービスは「枝葉」。地域住民による移送サービスは、公共交通を補完する形を目指していく。』をモットーに、官民連携で今後も話し合いを重ねていきます。

ともに生きてきた家族として支えたい 高齢者とペットを支える会

第42回『高齢者とペットについて考える
～ペットを悲しませないために～』
(令和6年3月24日)

「ペットに関する知識がなかった」「ペットがいるからサービスに繋がらず困ったことがある」などの意見が多数。



現在の介護保険制度では支援できないペットの問題を解決するため、関係者でネットワークをつくり、情報共有・連携できる仕組みを構築したい！



令和6年5月に『高齢者とペットを支える会』発足



共に生きてきた“家族”としてどちらも支えたい

【解決したいと考えている問題】

- ①高齢者は心身機能の低下に伴い、適正飼育が難しくなる
- ②飼育が困難になった場合、預け先が見つけれられない
- ③飼い主が亡くなった後、ペットが放置される事例が増えている



専門職向けに研修会を開催

令和6年12月26日、1回目の研修会を開催しました。ケアマネジャー・民生委員・行政・社協・地域包括支援センター職員など高齢者の相談支援に従事している方が参加しました。

関係機関からの事例発表、行政から法律・制度についての説明、社会資源の情報共有を行い、グループワークでは参加者の経験談や話を聞いて考えたことを共有することができました。

那須ハイランドパークへ視察

那須ハイランドパークでは、保護されたワンちゃんを引き取り、里親を探す活動をしています。同じ県北地域で行っている活動ということで、どんな活動をしているのかを現地に出向き、お話を聞くことができました。



高齢者とペットを支える会は
那須塩原市市民活動センターに
登録をしました！
地域ぐるみで活動していけるよう
に今後も活動していきます！

相談支援センターナイスケアリング

介護支援専門員 照沼 淑子氏からのコメント



高齢者にとってペットとの暮らしは癒しや生きがいに繋がる一方、適切な世話の継続や入院、施設入居、死亡時の受け入れ等に課題もあります。いざという時に備え、制度や資源について今後も学んでいきたいです。

‘22 いきがい・助け合いサミットin神奈川
ポスターセッション



Nishinasu Care Net

地域ケア会議

協議体



地域共生社会

オンライン×公民館



Frontier spirits

我が事



こども食堂

開拓魂



SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS



医療的ケア児

官民協働

当事者

誰一人、



ヤングケアラー

交通問題



ひきこもり

自殺予防対策

空き家問題

取り残さない

Leave no one behind.

facebook

ケアネット通信



‘23 いきがい・助け合いサミットin東京 ポスターセッション



NISHINASU CARE NET

地域ケア会議



シン・キョウギタイ

課題
issues

思い
passion

活動
action

2017.11
認知症

第4回 若年性認知症の方が
地域で暮らすために



2018.7
ひきこもり

第10回 生活困窮者が自立した
生活を続けるために



認知症をオープンに
できる環境が必要!

初期に専門職と関われる
仕組みが必要!

認知症の当事者の会が
あったらいいな

学校に行きたくないのに...
行かなきゃいけないの?

本人、家族への
サポートが必要!

相談できる場所が
あったらいいな

2018.4~
オレゾドア
にしなす

—認知症当事者の会—



2019.12~
あおぞらのいす

—ひきこもり不登校支援の会/相談会—



シン・キョウギタイ

目的別自由参加型協議体

2017.12

こども

第5回 気付いてますか?
こどもの貧困



こどもたちを
笑顔にしたい!

こどもたちの夢を
応援したい!

みんながつどえる
場所があったらいいな

2020.3~

こども“夢”くらぶ

—こどもの居場所—



2021.1

介護者

第23回 ヤングケアラーって?
~きょうだいの視点から~



ヤングケアラーって何?
みんなに知ってもらいたい!

いろんな人が関わり
解決していくことが大切!

みんなで話し合う場所が
あったらいいな

2021.3~

**ヤングケアラー
協議会**



SUSTAINABLE
DEVELOPMENT GOALS

記念
冊子



通信





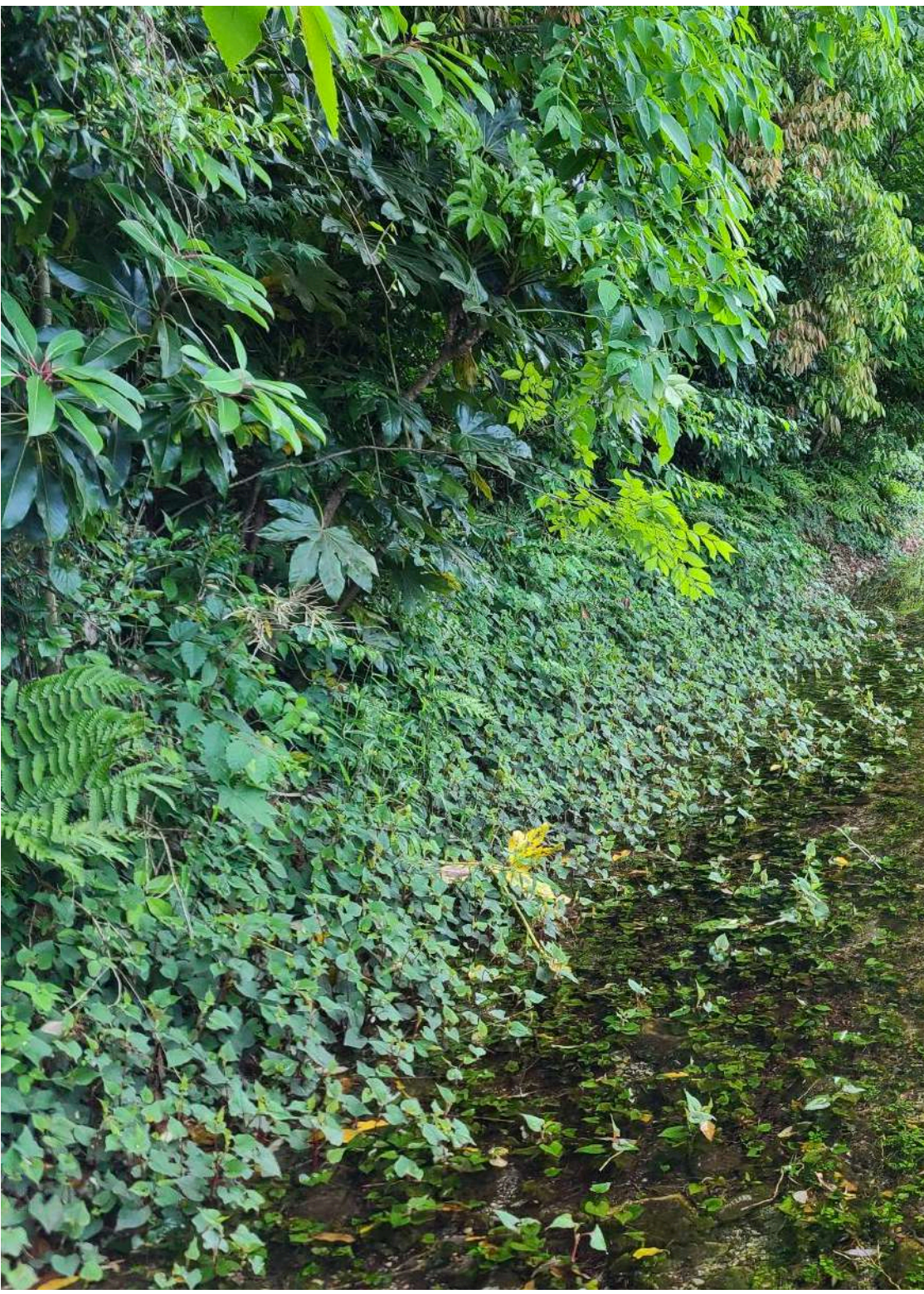
にしなすケアネット50回記念誌
デジタル版はこちら →



令和7年8月1日

発行・編集 にしなすケアネット企画運営委員会

※講師の方々の所属・役職等に関しましては当時のものになります。



LEAVE NO ONE BEHIND

